

編集後記

第1論文の執筆は江草千春です。この論文は少なくとも2つの優れた着眼を持っています。まずひとつ目は、看図アプローチは「創造的読み」の理論と実践方法から発展してきたものです。このため看図アプローチは創造的思考を引き出すツールとしても活用できます。江草はここに着目しています。江草の勤務校で採用している英作文用の教科書では「機械的な解答」を求める内容が多くなっています。江草はその問題を克服したいと願い今回の実践を行っています。江草は看図アプローチを活用することで、創造的思考をはたかせる英作文の授業づくりをしています。

もうひとつは、田中岬が小学校で行った看図アプローチ授業の追実践を試みていることです。江草は田中が見出した看図アプローチの効果を高校の授業でも追認しています。研究倫理上の制約により授業づくり研究では統制群法を用いることができません。そのため授業づくり研究では、さまざまな状況下で追実践を繰り返すことが必要になります。江草は小学校での実践を高校で追実践することにより看図アプローチの有効性を再確認してくれています。これは看図アプローチ発展のためにとても重要なことです。

第2論文も江草によるものです。江草は「英語教育における看図アプローチ活用法」の実践と研究のフロントランナーとして尽力してくれています。この第2論文では、看図アプローチを英語教育に携わる方たちに広めていくというとても重要な役割を果たしています。この論文も看図アプローチの発展と普及を願っている私たちにとってありがたい取り組みとなっています。

第3論文の筆者は石田ゆきです。石田が発明した「きゅうちゃん」は、いまや看図アプローチの実践には欠かせないツールになっています。今回の論文ではその「きゅうちゃん」がさらにパワーアップしています。きゅうちゃんは、時に知識をまとめるオーガナイザーとして活用されます。さらにきゅうちゃんは、人と人との関わりを深めていく縁結びの役割も果たしてくれます。このようにきゅうちゃんは人の知の形成・情の成り立ちと強いかかわりをもっています。今回の論文では、学習者たちが自己を深く理解し新しい自分を発見してゆくためのパートナーとしてのきゅうちゃんが紹介されています。第3論文の中で、きゅうちゃんはさらに進化しています。進化系きゅうちゃんもよろしくお願いいたします。

<表紙を読み解く>

私が住んでいる江別市は緑豊かなところです。住宅街を歩いていても表紙写真のような光景を見つかることができます。今、江別では、この春生まれたヒナたちが次々と巣立っています。写真に写っているコゲラのヒナも、あと数日でこの巣穴から飛び立っていくことでしょう。小鳥のヒナはとても早く成長していきます。巣立ちをする頃には親鳥とほとんど同じ大きさになっています。これほど早い成長の糧になっているのが親鳥が運ぶ小さな虫です。親鳥は毎日どれほどの努力をして、どれだけの回数、餌を運んできているのでしょうか。

この研究誌も22号になりました。これだけの回数を積み上げてこられたのも、論文を投稿していただいている先生方の日々の努力の賜物です。看図アプローチも着実に成長できています。先生方のお力添えに心から感謝しております。

表紙写真の撮影もデザインも、私たちの研究会専属アートスタッフ石田ゆきによるものです。毎回のことですが、これもありがとうございます。

文責 鹿内信善

——— 全国看図アプローチ研究会研究誌 22 号 ———

発行年月日 2024 年 7 月 1 日

編 集 「全国看図アプローチ研究会研究誌」編集委員

石田 ゆき

伊藤 公紀

織田 千賀子

鹿内 信善 *

山下 雅佳実

渡辺 聡

(* 印は編集代表)

発 行 全国看図アプローチ研究会



kanzu-approach.com

事務局長・編集長・DTP・表紙デザイン 石田ゆき